

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 大阪府立佐野高等学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒598-0005
大阪府泉佐野市市場東2-398
E-mail sano-hs@sbox.pref.osaka.lg.jp
Website http://www.osaka-c.ed.jp/sano/
幼児児童生徒数 男子 478名 女子 590名 合計 1068名
幼児・児童・生徒の年齢 15歳～18歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校では、学校経営計画の中期的目標の一つとして、ユネスコスクールに係る教育活動の推進を掲げている。

主には、国際教養科の授業、学校行事、ユネスコ部のクラブ活動等において、ESDを実践した。内容は、①国際理解(協力)に係わる教育、②人権・平和に関する教育、に関するものが主であった。

① 国際理解(協力)に係わる活動

(A) 国際教養科1・2年生必修科目「国際理解」の授業においてESDをテーマとしたトピックスタディー

主なトピックは、開発と貧困、南北問題、難民 など

(B) 海外スタディツアー及び海外の生徒との交流会の実施

(1) 2年生全員360名を対象としてグアムへの修学旅行を実施。

(2) カンボジア・スタディツアー

3月23日～30日(7泊8日)で、1・2年生希望者10名を対象としてカンボジア・スタディツアーを実施。ツアーの内容はバタンバン州の地雷処理現場の見学やホームステイ、学校交流など。

(3) オーストラリア夏季語学研修

7月21日～8月4日 希望者1・2年生25名の参加

(4) フィンランド・メルカルヴィア高校との交流事業

フィンランド・メルカルヴィア高校より20名の高校生を5月に約1週間受け入れ。8月15日～23日まで、本校より希望者1・2年生20名を現地に派遣し、交流を行った。

(5) 李秀賢氏記念韓国高校生交流事業 1泊ホームステイの受け入れ 2月2日・3日

(C) ロングホームルーム等を利用した講演会・学習会の実施

(1) 1年生全員対象 JICA青年海外協力隊OB・OGによる学習会

(2) 2年生国際教養科対象 テラ・ルネッサンス職員 栗田佳典氏の講演

2年生国際教養科対象 フリーザチルドレン・ジャパンによる講演

(3) 3年生全員対象 関西学院大学上ヶ原ハビタットメンバーによる講座

②人権・平和に関する教育

(A) 3年生全員対象

7月 テラ・ルネッサンス創設者 鬼丸昌也氏の講演

(B) 大阪ユネスコスクール・ネットワーク主催「日中ESD国際ワークショップ」(12月22・23日) および事前学習会(5回)への参加

③その他 ユネスコ部によるボランティア活動等

(1) 地元泉佐野市での海岸清掃(月1回)

泉佐野市りんくう花火大会でのボランティア活動

(2) 泉佐野市内老人ホーム、福祉施設でのボランティア活動(不定期)

(3) 各種国際交流団体、施設での手話コーラス、ハンドベル(不定期)

(4) 関西NGO協議会主催 One World Festival for Youthの参加・運営

(5) 泉州水ナスの栽培



①の写真 カンボジアスタディツアー



②の写真 日中ESD国際ワークショップ

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

- ・(特活) 開発教育協会 出版の教材(「ワークショップ版世界がもし100人の村だったら」等)
- ・「You, Me and the World」(金星堂出版)

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

当校では、学校経営計画の中期的目標の一つとして、ユネスコスクールに係る教育活動の推進を掲げている。（学校経営計画 2 中期目標 2（2）「ユネスコスクールとして国際交流と地域交流を推進する。「人権」、「国際理解（協力）」、「ESD」等の価値観に関する教育を通して、課題解決能力を獲得させるグローバルな視野をもった人材を育成する」）主には国際教養科の授業における課題解決型学習や、全生徒が参加する学校行事、クラブ活動等において、ESDを実践している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

学校組織として、ユネスコスクール推進委員会を設置している。メンバーは、学習進路指導部国際グループ6名、国際教養科担任6名、教頭により構成。各1学期に1回、委員会を開き、生徒や学習活動についての情報交換を行い、校内でのESDの推進を図っている。また、クラブ活動としてはユネスコ部があり、今年度の部員数は77名と多くの生徒が積極的に参加し、活発な活動を継続して行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

内部評価として、全校生徒、保護者、教職員を対象とした学校教育自己診断アンケートを実施した。全校生徒対象アンケートでは、「環境、国際理解、人権や福祉について学ぶ機会がある」に肯定的な意見の生徒が8割を超えており、この数字は年々上昇している。また否定的な意見は減少している。教職員対象アンケートでは、「ユネスコスクールとして、人権や国際理解教育にしっかり取り組んでいる」に肯定的な意見が9割を超えており、この数字も年々上昇している。ただ、普通科生徒と国際教養科生徒の数字に開きがあり（国際教養科生徒の方が肯定意見が多い）、普通科生徒に対するESDのさらなる浸透を図ることが課題と考えられる。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

地域や他校生徒、海外などとの「つながり」を意識して、積極的に校外に出かけている。特に、カンボジア・スタディツアーでは、帰国後の報告会を地域の小中学校、国際交流団体、ロータリークラブなどで数回実施し、地域の方々や先生方、児童生徒から高評価をいただいた。数名の生徒は、各種コンクールなどへ積極的に参加し、高い評価を頂いた。(大阪ユネスコ協会連盟主催「国際理解・国際協力に関する主張コンテスト」3位入賞等)

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

昨年度、本校のESD活動にご協力いただいた学校以外の団体は次のとおり。大阪府立大学、和歌山大学、関西学院大学、大阪大学、泉佐野市社会福祉協議会、社会福祉法人いちょうの森、(特活)テラ・ルネッサンス、(特活)アジア協会アジア友の会、(特活)関西NGO協議会、(特活)フリーザチルドレン・ジャパン、国際交流基金関西国際センター、JICA関西、泉佐野市、泉佐野地球交流協会 ica、泉佐野ロータリークラブ。また大阪ユネスコスクールネットワークの活動に積極的に参加している。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

国内では、大阪ユネスコスクールネットワークに参加し、定期的にネットワーク参加の他校の生徒との学び合い活動に参加している。昨年度は、日中ESD国際ワークショップ(12月実施)とそれに向けての準備セミナー(全5回)に参加した。さらに夏季には、京田辺シュタイナー学校とともに、学び合い合宿(1泊2日)を紀泉わいわい村(大阪府泉南市)で実施し、持続可能な循環型の生活を体験した。

- ⑧ ユネスコス쿨の活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

特に地域とつながる活動（海岸清掃、水ナス栽培など）を通して、さまざまな方々と関わり、生徒はより地域に誇りと愛着を感じるようになってきたようだ。また生徒たちは、自分にも未来をつくる力がある、という自信を得て、またそのことにより、より良い未来をつくる責任が一人ひとりにあるという地球市民としての自覚のようなものをもち始めたように感じている。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

今年度の活動を発展、継続する予定。

- ・教科授業におけるESDの観点を取り入れた課題解決型学習
- ・海外研修旅行（グアム、カナダ、カンボジア）
- ・ロングホームルーム等を利用した人権・平和に関する講演会
- ・大阪ユネスコス쿨ネットワークへの参加
- ・ユネスコ部の活動（ボランティア、水ナス栽培など）
- ・各種コンクール、コンテストへの参加